

## ねんりんピック長崎2016 遠征記

群馬県弓道連盟 岩本敬一

諫早湾に、真直ぐ伸びる干拓堤防道路を行く群馬選手団バスの前方に、雲仙の山々が迎えてくれていました。翌日の開会式を皮切りに、その山の麓、島原市にて、弓道大会が開催され参加する機会が与えられました。

群馬2004には役員として全国の選手の皆さんをお迎えし、翌年の福岡2005には選手として参加することが出来、以来、11年ぶりの2回目の参加となります。今回も前回同様、夫婦での出場ですが、私たちにとっては特別な想いとなる大会となりました。

本県弓道連盟の前還暦部会長近藤清宏さんから、今回のお誘いを頂いたとき、これを金婚記念、金婚旅行にしようとのアイデアが頭に浮かび快諾しました。金婚など過去一度も思ったこともないのに。考えてみれば健康保険証もいつの間にか後期高齢者用に替わり、半世紀の間大過なく過ごすことが出来たのも、弓道と同じ趣味に打ち込んできた結果でしょう。ご指導いただいた先生方には深い感謝です。開会式の華やかさも歓声も、私たちへの祝いです！いや、そうではないですね。ねんりんピックは、すべての高齢者への讃歌です。本県弓道連盟会員の51%は60歳以上であり、60歳以上のシニアだけで行われる年5回の大会は一般の月例会とほぼ同等の参加者数を誇るだけでなく、的中数も目を見張るものがあります。

「長崎県で一番好きなことは何ですか？」

地元の小学生に尋ねたところ。「皆が優しいことです。」よか子たちバイ、バツテンおいは妻に優しくかと？ひたすら自問である。

古尾谷さん夫妻、監督兼任の近藤さん、岩本夫婦、交歓試合出場の宇佐美さんの6人の選手が決定した後、出発までに5回の合同練習を重ねて、そこそこの成果を挙げられるのではないかと考えていましたが、本番は魔物、惨敗でありました。弓道は特に精神状態が結果に係わるもの。金婚の2文字に浮かれる私への戒めであったかもしれません。しかし、地元の方たちの温かい、おもてなしを受け、豊富な温泉に浸り、美味しい山海の料理と、焼酎を頂きながら仲間と語り、試合の相手と一期一会の語らいをすれば、試合の傷は癒され、ねんりんを重ねる楽しさを覚え、まだまだ輝けるシニアとして、ファイトが湧いてくるのでした。

大会終了後、レンタカーにて回った雲仙、長崎市、佐賀の3日間も、長崎2016と共に金婚の素敵な記念でありました。